

# 中空知地域公共交通活性化協議会(上砂川町)における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

本町においては、人口減少とともに少子高齢化が進み、生活の足を持たない住民が増加する中、コロナ禍による利用者減少等に伴い路線バスの一部が減便・廃止となる等、地域公共交通の存続が重要な課題となっている。

このことから、通院や通学、買い物等住民の日常生活に支障を来すことがないよう、地域公共交通の在り方について地域のニーズを把握しながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し、上砂川町乗り合いタクシー制度の利便性向上に努めることにより、生活交通ネットワークの構築を進める必要がある。

## 地域公共交通の現況

- ・北海道中央バス株式会社  
歌志内線
- ・北星三星交通(株)  
上砂川町乗り合いタクシー事業

## 生活交通確保維持改善計画の目標

- ・乗り合いタクシーの延べ利用者数  
町内便 年間 2,500人／年  
町外便(砂川行) 年間 1,500人／年
- ・乗り合いタクシーの平均収支率  
町内便 12.6%  
町外便(砂川行) 19.47%

## 協議会開催状況

- 令和7年5月27日(第1回)
- ・令和8年度地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について
- 令和8年1月7日(第2回)
- ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

## 令和7年度事業概要

- ・運行系統名 上砂川町乗り合いタクシー
- ・運行区間 【町内便】利用者宅～上砂川町内 【町外便(砂川行)】利用者宅～砂川市連絡施設
- ・運行便数 【町内便】15便(利用者宅～町内連絡施設8便、町内連絡施設～利用者宅7便)  
【町外便(砂川行)】4便(利用者宅～砂川市:3便、砂川市～利用者宅:1便)
- ・運賃 【町内便】1乗車200円  
【町外便(砂川行)】1乗車300円

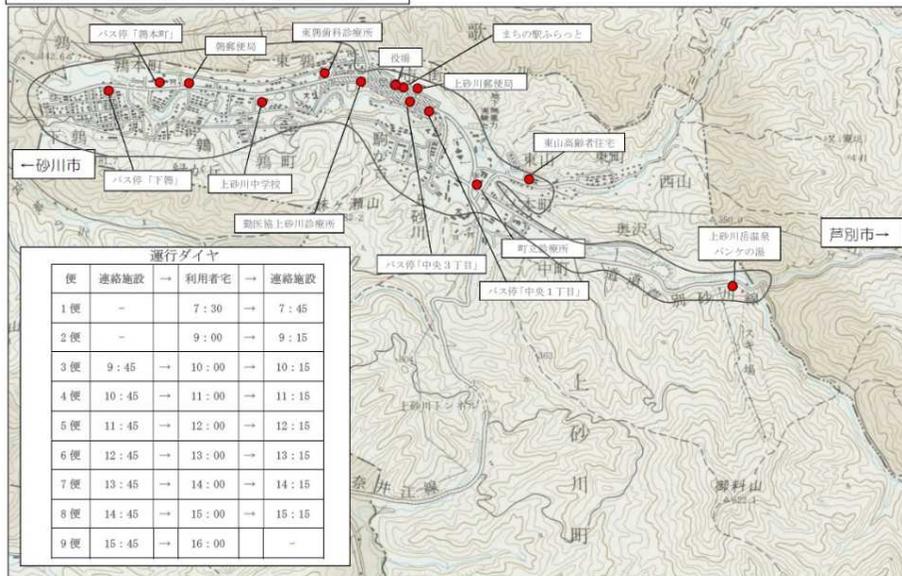
# 令和7年度事業の実施状況

## 1) プロセス、創意工夫

- ・平成31年2月 上砂川町乗り合いタクシー実証運行開始。
- ・令和2年5月 乗り合いタクシーに関するアンケート調査実施。
- ・令和2年10月 制度拡充(1日4便→7便、連絡施設数9箇所→12箇所)
- ・令和3年6月 乗り合いタクシーに関するアンケート調査実施。
- ・令和3年10月 本格運行へ移行。制度拡充(1日7便→8便、連絡施設数12箇所→14箇所、他予約方法の柔軟化)
- ・令和4年10月 上砂川町乗り合いタクシー(特別便)実証運行開始。
- ・令和4年12月 乗り合いタクシーに関するアンケート調査実施。
- ・令和5年4月 上砂川町乗り合いタクシー(特別便)本格運行へ移行(名称:町外便(砂川行))
- ・令和5年12月 乗り合いタクシーに関するアンケート調査実施。
- ・令和6年12月 乗り合いタクシーに関するアンケート調査実施。
- ・令和7年12月 乗り合いタクシーに関するアンケート調査実施。

## 2) 運行系統

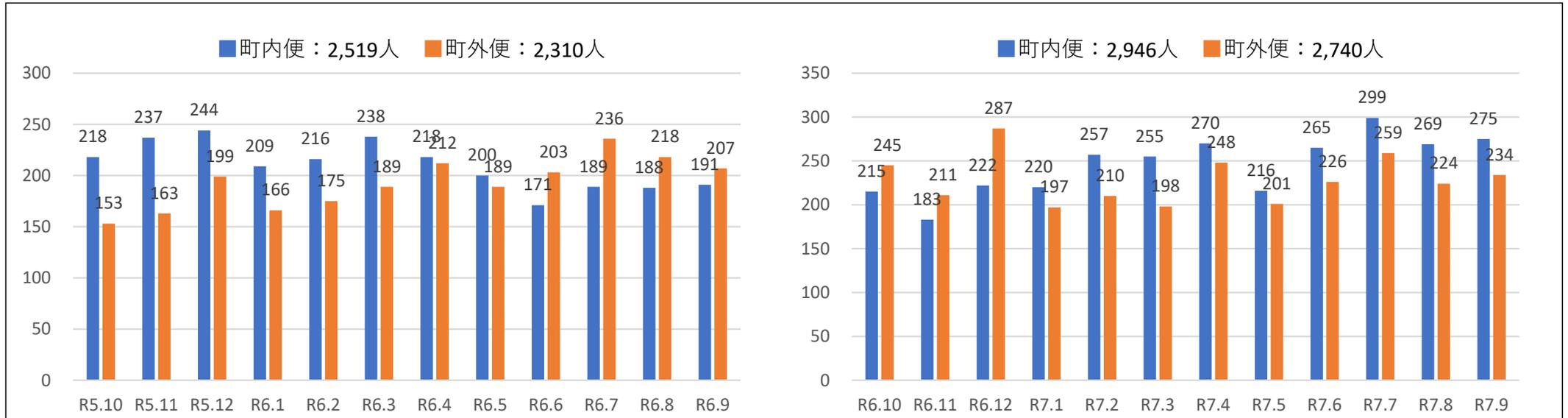
上砂川町乗り合いタクシー運行エリア



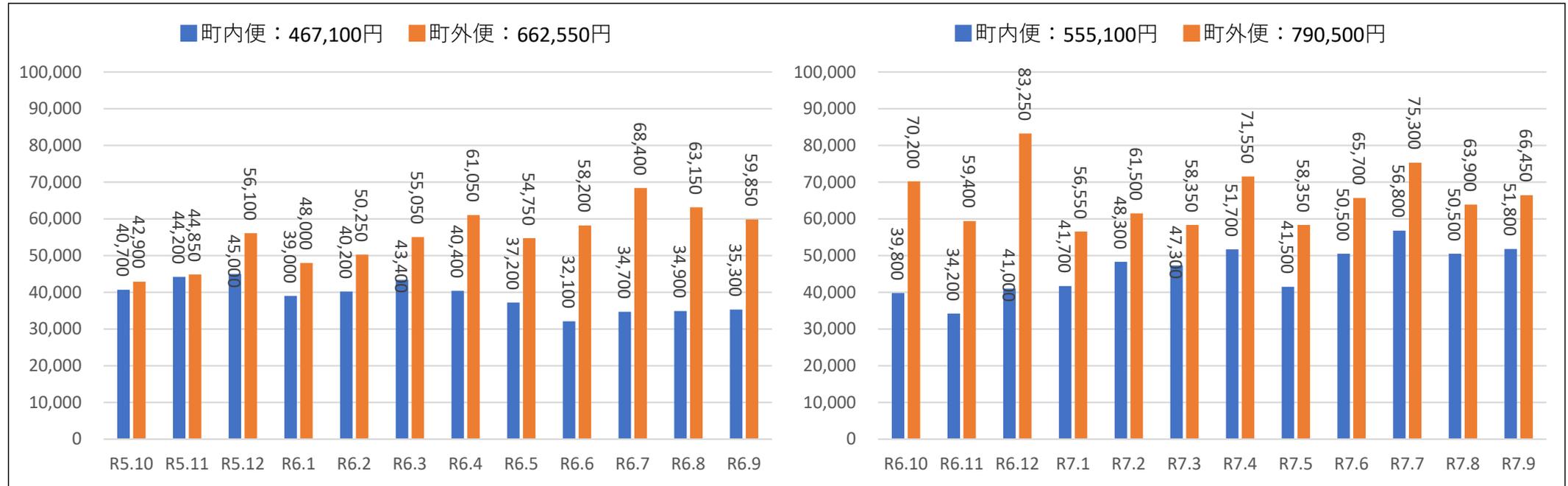
上砂川町乗り合いタクシー運行エリア 町外便(砂川行き)



### 3) 利用実績



### 4) 収入実績



## 5) 事業実施の適切性

- 乗り合いタクシー【町内便】  
事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。
- 乗り合いタクシー【町外便(砂川行)】  
事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。

## 6) 目標・効果達成状況

- 乗り合いタクシー【町内便】  
利用者の目標値である2,500人/年に対し、2,946人/年の利用者数となり、目標数値を上回った。  
平均収支率の目標値である12.6%に対し、10.9%となり、目標値をやや下回った。
- 乗り合いタクシー【町外便(砂川行)】  
利用者の目標値である1,500人/年に対し、2,740人/年の利用者数となり、目標数値を大きく上回った。  
平均収支率の目標値である19.47%に対し、29.0%となり、目標値を上回った。

## 7) 事業の今後の改善点

今後においても、人口減少・少子高齢化等による利用者減少に伴う路線バスの減便等が懸念されることから、引き続き「乗り合いタクシーに関するアンケート調査」を実施するなど、住民の移動ニーズを把握するとともに、町広報誌や町公式ホームページを活用し本制度の周知拡大を図りながら、地域公共交通の確保・維持に向けた取り組みを進める。

## 8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・町内便の収支率の目標は達成することができなかったが、今後も地域公共交通計画に基づき、利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、公的負担額といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。